



2011～2012年度

中津平成週報

Rotary Club Of Nakatsu Heisei



2011～2012年度
国際ロータリー・テーマ

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

国際ロータリー会長
カルヤン・バネルジー

国際ロータリー2720地区 **中津平成ロータリークラブ**

会長 二反田新一 幹事 若松 定生 会報担当 加来 敏男 クラブ広報委員長 川崎 潤

例会日/毎週木曜日 12:30

例会場/グランプラザ中津ホテル TEL 0979-24-7111

事務局/〒871-0055 中津市殿町1383の1 中津商工会館2F

TEL 0979-22-9716 FAX 0979-22-9722

e-mail office@n-heisei.org

<http://www.n-heisei.org/>

第1034回例会 平成23年7月28日(木)

●本日の例会プログラム 納涼夜間例会

◎次回例会プログラム ゲスト卓話 「原発について」
九州プラスネット



前回(1033回例会)の記録

平成23年7月21日(木)

■ゲスト

本田光曠ガバナー
川島真人ガバナー補佐

■出席報告

会員数 24名
免除者数 1名
対象者数 23名
本日出席者 21名
欠席者数 2名
出席率 91.30%

■ビジター

中津RC 中野 登君

■前々回出席報告の修正

前々回欠席者 4名

メイクアップ 1名

欠席者 3名

修正出席率 82.61% → **86.96%**

●メイクアップ

若松会員

●欠席者

土居、松本、矢頭

◎ロータリーソング 君が代、奉仕の理想

◎会長の時間 会長 二反田新一

今週は「なでしこジャパン、ワールドカップ金メダル」の話題は震災後の暗い日本社会を一気に明るくしてくれました。私は試合当日、たまたま午前4時ごろに目が覚めて、日本-アメリカの決勝戦を前半途中からリアルタイムで観戦することができました。圧倒的に攻め込まれながらも、前半0-0。後半1点を先制されてから試合終了間際に同点。延長戦に入り、またも先にゴールを決められ、「あ〜これまでだな」、「しかし、並みいる強豪の中、圧倒的な体格差を乗り越えて、決勝まで来たのはよくがんばったよなあ」と思いつつ、睡魔に襲われウトウトとしていました。その矢先、コーナーキックからの澤選手のゴール、またも同点。眠気は一気に吹き飛ばされました。PK戦直前、悲痛な表情のアメリカに対し、日本選手と監督の笑顔がテレビに映し出された瞬間、勝利の女神は日本に微笑んでくれると誰もが思ったことでしょうか。結果は日本優勝。この試合を通して、最も印象的なことは、優勝の瞬間、そしてインタビューの時も、チームの誰一人として涙を流していませんでした。はつらつとした表情と、あふれんばかり満面の笑顔に日本国民皆が勇気付けられたのではないのでしょうか。「がんばれ日本」のスローガンは「がんばれ日本(男子)」と響いてくるのは私だけでしょうか。

さて、本日は熊本から本田ガバナーをお迎えしての、ガバナー公式訪問例会です。ガバナー公式訪問では、その年度のRIや地区の方針を例会内でガバナーから直接聞くことが出来、例会後のクラブ協議会ではより深くアドバイス頂ける年一回の貴重な日であります。今期は期が始まってすぐの7月に越えたいだいた事は、私自身会長として非常にありがたく思っています。本日は一日よろしく願っています。

◎幹事報告 幹事 若松定生

●例会変更 中津RC→8/10(水) 休会、宇佐八幡RC、大分1985RC

●週報受理 中津RC

●幹事報告

・中津中央RCより8月プログラム届く

・「第17回全日本ロータリークラブ親睦合唱祭」開催のご案内及び参加ご意向確認について

・中津商工会議所より「会議所ニュース」届く

・プライダル推進委員会活動計画説明会のご案内

◎委員会報告

・二反田会長

ガバナーが持参された東日本大震災の特別報道写真集を回覧します。

・クラブ管理運営委員会

今回は18:30～ 納涼夜間例会 服装はカジュアルで。

◎ニコニコボックス 担当:クラブ広報委員会

◎二反田会長

本田ガバナーと川島ガバナー補佐からニコニコを頂いております。私もニコニコします。

◎永松(達) 会員

本田ガバナー、就任おめでとうございます。熊本城稲荷神社では以前からお世話になっています。

◎若松幹事

本田ガバナー、川島ガバナー補佐、本日は有り難うございます。

◎梶原会員

祇園のため早退します。

◎辛嶋会員

本田ガバナーとは一昨年、ガバナー補佐で同期でした。ガバナー就任おめでとうございます。



2011～2012年度

中津平成週報

Rotary Club Of Nakatsu Heisei



2011～2012年度
国際ロータリー・テーマ

こころの中を見つめよう
博愛を広げるために

◎熊谷会員

私も永松さんと一緒に熊本城稲荷神社でお世話になりました。

◎永松(浩)会員

今回は私にとって2回目のガバナー公式訪問です。今後も精進します。

◎国際ロータリー第2720地区ガバナーアドレ

【ロータリーの現状と新年度RIテーマと地区運営方針】ガバナー 本田光廣
本日はガバナー公式訪問にあたり、私を温かくお迎え頂き、誠にありがとうございました。ご紹介を頂きました、2011～12年度RI第2720地区ガバナーを務めさせていただきます本田光廣と申します。熊本城東RCの所属でございます。職業分類は神道です。どうぞ一年間よろしくお願ひ致します。

さて、今年も、地区大会前日に東日本大震災が起り、RI会長代理としてお越しになりましたのが被災地区、宮城県塩釜市の桑原茂ロータリーコーディネーターでした。前日は被害詳細不明の中、木下直前ガバナーは、本大会を延期するのか、中止するのか、開催するのかと随分と悩まれたのではないのでしょうか。しかし、地区最大の公式行事である地区大会を開催するというガバナー決断をされ、久しぶりに1数00名を超える多くの会員が登録をされる素晴らしい地区大会・交流会となりました。その後は被災地区への復興支援を早速に進められ、救援物資を始めとして多額の義援金を集めて送付されました。「ガバナーはガバナーをしながらガバナーになる。」これは、寿崎バスターガバナーが当地区の向笠元RI会長から伝えられた教訓であります。まさに木下直前ガバナーはガバナーをしながら立派なガバナーになられた感じが致します。「私たちロータリアンを、子供たちが募金活動をしていたら、どこで何度も義援金を差し上げたとしても、知らん顔をするのではなく、積極的に「ごろうさん」といって募金をあげようではないですか」と話されました。心の中にある人間の本質、心の有り様を見据えることがロータリーの本質だと感じた次第です。今後も被災地の復興を長期的にとらえ、未来に生きる子供たちを力強く支援して参りたいと思ひます。また、地区の運営安定に關して、ガバナー・Gエレクト・Gノミニと常に三人が揃って地区の運営が出来ますように尽力して参りたいと思ひます。私はガバナーとして、これからが未知との遭遇ですが会員の皆さんのご協力を頂き、ガバナーをしながらガバナーになって行きたいと思ひます。

さて、本日は先ほどまで会長幹事さん、そして次年度の会長幹事エレクトの方々と懇談をさせていただきました。今年度から会長・幹事エレクトの方にもご同席して頂きましたのは、次年度に向けての心構え、準備の為でもあります。クラブの長期計画の始まりかと存じます。これを機に、積み重ねてこられた事業をもう一度見直して頂き、クラブの棚卸をしながら、良いクラブから素晴らしいクラブへ心機一転して頂き、魅力あるクラブとなって頂ければと存じます。

さて、前年度は木下ガバナーの下、私とは肅々とロータリー地区行事を進めてまいりましたが、3月11日に東日本大震災と言う未曾有の国難に見舞われました。この大震災の落とした影は計り知れないものがあります。エネルギーのこと、中央と地方のあり方、農業の事、環境の事、人間の生き方のごとど計り知れないほどの示唆を私達に与えました。「人間は自然の前ではかくも無力である」といったありきたりの言葉では済まされません。「人間は自然の一部でありますから、自然と対峙する生き方ではなく、自然と共生し自然の摂理、理に沿って生きるべき」ことを教えております。私たちが行っております社会への奉仕活動もこの震災を受けて「震災復興支援」を第一の優先順位として、「私たちロータリアンに何ができるのか」を考えてクラブ運営をして頂きたいと願っております。私達日本人はかつての敗戦を乗り越えて、いや敗戦のおかげで大きな国になりました。敗戦、震災、これらの国難は恐ろしい事ではありますが、私たちはそれよりもっと強い国民であると信じています。単なる復興ではなく「創生復興、新生復興」未来は以前よりも、もっと良くなるように支援しなければならぬと思ひます。

本日はまずロータリーの現状、次に新年度RI会長テーマ、最後にガバナーの地区運営方針の3つについてお話をさせていただきます。ロータリーは社交クラブとしての閉鎖性と「世界でよい事をしよう」と世界に眼を見開いた開放性を併せ持つ組織であります。1927年ベルギー、オステンドでの世界大会でポール・ハリスは「ロータリーの奉仕理念は哲学ですから万古普遍のものであり、みだりに変えるべきではありません。と言うよりも絶対に変えてはなりません。しかし奉仕活動の実践は社会のニーズにしたがって大胆に変化させなければ、誰からも頼りにされないばかりか、相手にされません。」と語ったそうです。「変える勇氣と変えない勇氣を持って」と私たちに伝えてあります。ですから、私たちロータリアンは常に物事を本質と現象に分けて分析しなければなりません。万古普遍のものが本質で、移り行くものは現象です。ですから、私たちはロータリーの本質とは何かを常に問い続けなければなりません。木下直前ガバナーは「ロータリーの本質とは、人間形成である。その為には謙遜さと思ひやりが必要であり、決して優越感をもつてはならない。それを学ぶ所が例会である。」と述べられています。言いかえれば、自然に対する畏敬の念と自律自尊でありましょう。

ロータリーも創立以来106年がたちました。この間2度の世界大戦、世界恐慌、ポリオの世界的流行、自然の大災害など幾多の事件が発生し、その都度、社会の新しいニーズが発生し、ロータリーはそのニーズに応じて新しいプログラムを立ち上げて今日があります。そして、ロータリーはモザイク化したのです。(異なる形質が体の部分を変えて現れ、共存する現象です。)

1959年度RI会長ハロルド・トーマス氏は1974年に発刊された「ロータリーモザイク」のなかで「構成人員の多様性、活動の多様性、考え方の多様性、しかし、それらは皆共通の目的に統一された中での、調和と一致を捜し求める多様性でなければならない。ロータリーについての考え方ももっと明確にし、単純化しなければならない。ビジネスと友情の間に橋をかけるという原理こそが進化し続ける中でも失われない原理である」と述べてあります。

次にロータリーの会員数の現状をお話し致します。世界のロータリアン数は2002年をピークに増加する事をやめました。124万3千人から

現在はピーク時の1.2%減(122万8千人)であります。内訳はロータリー先進国米、日本の会員数の減少です。米国は1994年をピークに現在14.5%減、日本は1997年(13万1,731人)をピークに現在(8万9,700人)で(-4万2,031人)32%減であり、我が2720地区は1993年(3,445人)をピークに(982人)39.87%減であります。

会員数の増減

全世界 日本 RID2720U.S.A.

全世界のピーク 2002年

1,243,431 1997年

131,731 1993年

3,445 2002年

421,823 2010年現在 1,228,303

89,700 2011年4月 2,463,360,632

ピーク時との差-15,128-42,031-982-61,191

ピーク時の%減-1.20%-32.00%-39.87%-14.50%

つまり奉仕活動における支援国の会員数が激減し、被災国への期待の質は変質します。

RIは2000年を契機に次々と改革案を提示してきております。2002年のDLP、2004年CLPのRI理事会承認、2010年から2012年までの新長期計画、2013年からの財団の未来の夢計画であります。改革の骨子は国際ロータリー組織構造、目的の簡素化と活動の継続、広報のまさに3Kであり、活動のBetter, Bigger, Bolderの3B(大きく、より良く、そして大胆に)であります。そして、ロータリーブランドの構築のために職業奉仕と、中核となる価値観として、親睦、奉仕の車の両輪に加えて多様性、高潔性、リーダーシップをおいたのです。

本日は詳細に触れる時間の余裕はありませんが、地区としてこの一年皆さんに充分ご理解いただけるようセミナー等を実施して行きますのでどうか参加して学んで頂きたいと思ひます。

さて次年度RI会長はインド出身のカルヤン・パネルジー氏で、現在68歳の若きリーダーであります。インドからは1962年度のニッティシ・ラハリ氏、1991年のラジェンドラ・サパー氏について3番目のRI会長となります。カルヤン・パネルジー会長のRIテーマおよびテーマロゴをお示しします。

カルヤン・パネルジー氏の会長テーマは「こころの中を見つめよう 博愛を広げるために」(Reach Within to Embrace Humanity)であります。「心」ではなく「こころ」と表現されていることと「Embrace」を「広げる」と翻訳されているところに哲学的なものを感じます。「こころ」は「心」よりもっと広いものを包含しているように思ひます「抱きしめる」(Embrace) ことはすなわち「博愛」に等しく思われるからです。

私は、国際協議会でロゴを発表されました時に、インドからのRI会長ですから、このロゴはターバンだと思ひました。どうも違っていたようです。このテーマロゴは心臓を形どったものです。かつてギリシャの哲学者プラトンは心の所在を脳に求めました。その弟子アリストテレスは心の所在を心臓に求めたのです。これは心の所在を心臓に求めた構図です。心の中を見つめたい何が見えますか。心の中には人間の本質が宿り、見えてくることとなります。この人間の本質こそロータリーの本質に通じるものです。

四無量心

慈：人をいづくしむ広いこころ

悲：人の悲しみを我が悲しみに

喜：我一人の喜びにあらず、全ての人の喜びが我が喜び

捨：人に尽くしても見返りを求めない心

インドの詩人で思想家のタゴールは「全ての赤ん坊は、神がまだ人間に失望していないというメッセージを携えてくる」と謳いました。つまり心の中には神、仏に通じるものが宿っていると言うわけです。その心を見つめ取り出し、眼に見える形にすることをカルヤン・パネルジー会長は訴えているのです。

そして強調事項として3つ挙げられました。家族、継続、変化であります。人間生活の原点を家族に置いたのです。東洋の儒教思想にも通じる修身、齐家、治国、平天下の考えであります。加えて2つの目標分野を挙げられました。一つは若者を中心とした会員増強であり、いまひとつは広報であります。これを受けたガバナーは地区運営方針を示さなければなりません。

私の務めはRIの新長期計画、財団の夢計画の充分なご理解と、クラブ強化のためのサポート・CLPの導入・新世代育成とロータリー家族の充実、公共イメージと認知度の向上・クラブの柔軟性と会員の多様性を増進することです。皆さんには、長期的ビジョンを描き目標を定め、継続的に一貫性を保つため、数の問題でなく質の強化、組織の強化を図り、リーダーシップを持った人材の育成を行うことによって、会員の維持増強にも進んでいくものと考えています。新プログラムとしては、プライダル推進プロジェクトがニューリーダーシッププログラム、会員増強支援ネットワーク・職業奉仕重視の運営方針であります。RIが改革、変革計画を出してきたこの時を利用してクラブ奉仕委員会、社会奉仕委員会等各委員会のたな卸しをしていただきたいのです。欠点をただし、長所をのびして長期計画のもつクラブの活性化を図って欲しいというのが私の願ひであり、地区運営方針でもあります。

「矛盾することを同時に成し遂げなければ、大きな成功はありません。矛盾する両輪を、中途半端でなく、とことん追求していく先に、まったく新しい世界が開けて来ます。また、過去と相手を変えることはできませんが、未来と自分は変えることができるはずで、今の日本は少子化の時代です。外国人労働者を入れない限り、人口は増えませんが、交流する人々を増やすこと、多様化する事で交流人口を増やすことができるのです。それがロータリーの増強だと思ひます。

物を計るのは物差し、心を計るのは【志し】と言ひます。人は現在よりも、未来の夢に生きる。夢あれば人生あり、夢あれば青春ある。夢あるところに細胞が活性化し、志あるが故に進歩発展の歴史を創造することが出来ると思ひます。心の中を見つめ、私たちが心機一転です。

ご静聴有難うございました。